



平成 31 年 4 月 25 日

AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）「不育症の原因解明、予防治療に関する研究」

**心理の専門家ではないスタッフのための  
流産・不育症カップルへのメンタルサポート実践の手引き  
「グリーフケアとテnder・ラビング・ケア（DVD 付き）」が完成**

不育症の女性は、流産や死産を繰り返すことにより、不安を持ったり抑うつ状態になったりすることがあります。そして次の妊娠が始まるとその不安はさらに強くなっていきます。このような一連の時期に必要なのが医療スタッフによる精神支援であるグリーフケア、テnder・ラビング・ケア（TLC）です。その実践により不育症の女性はやさしさに包まれたような環境に置かれます。しかし、日本における普及は十分ではなく、認識のない医療スタッフも多く見られ、辛い思いをしている流産女性も少なくありません。

今回、岡山大学大学院保健学研究科では、AMED「不育症の原因解明、予防治療に関する研究」により、不育症カップルへの調査を行い、その結果をもとに、臨床心理士などが在籍しない医療施設でも始めることができる「グリーフケア、テnder・ラビング・ケア実践の手引き」と DVD を作成しました。全国の産婦人科施設に送付し、啓発・普及を推進する予定です。

<発表内容>

流産（胎芽・胎児死亡）の診断から流産後の数日は、その母親や家族にとって、非常に重要な時期です。しかし、入院や突然の搬送で、見知らぬ看護スタッフとの関係性を築くことができず、支援の情報も得られないまま退院となることも多いのが実情です。流産女性では医療スタッフの対応に不満を持つことが多いとされます。例えば、本人が来院を希望しているのに、電話対応の時に「少量の出血なら自宅で寝ていては？」と自宅安静を勧めた場合や、出血などで来院した場合も親身に接していなかった場合など、「そのために流産となったのではない」ことは分かっているにもかかわらず不満を持ちやすいとされます。このような不満感は、流産後 3 カ月間の抑うつ発生の発生に関連するとの報告もあります。

不育症女性への精神的支援として、流産後には、「悲嘆（グリーフ）」に向き合い克服あるいは適応するための支援「グリーフケア」が、また次の妊娠中には、再び流産となる不安を軽減するための支援「テnder・ラビング・ケア（Tender Loving Care：TLC）」があります。

これらは一体として行われるべきであり、その実施により、うつや不安症となる不育症女性を減らすことができる可能性があります。しかし、日本における普及は十分ではなく、認識のない医療スタッフも多く見られ、辛い思いをしている流産女性も少なくありません。

今回、岡山大学大学院保健学研究科では、AMED「不育症の原因解明、予防治療に関する研究」により、岡山大学病院などの不育症外来を受診する不育症カップルへの調査を行い、その結果をも



## PRESS RELEASE

とに、臨床心理士などが在籍しない医療施設でも始めることができる「グリーフケア、テnder・ラビング・ケア実践の手引き」を作成しました。また、グリーフケアやTLC実践のため、さまざまな医療施設で、不育症カップルが実際に経験したエピソードを基に、適切な例や不適切な例についてのドラマと解説で構成したDVD（2枚組）を作成いたしました。今後、全国の産婦人科施設（約2,500施設）に送付し、グリーフケアやTLCの啓発・普及を推進する予定です。また、AMEDの不育症啓発・支援サイト「フイクーラボ（<http://fuiku.jp/>）」でも配信を開始します。

医療スタッフはもちろん、一般の方々にもご覧いただける内容になっています。ぜひ、広く「不育症」という言葉を知っていただき、職場などで、上司や同僚が、無意識に不育症カップルを傷つけることも少なくなればと思います。

### <配付資料>

1. 心理の専門家ではないスタッフのための流産・不育症カップルへのメンタルサポート実践の手引き「グリーフケアとテnder・ラビング・ケア（DVD付き）」
2. 岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育ところの相談室」チラシ

### ※実践の手引き付属のDVDに収録している内容

- ・「心理の専門家ではないスタッフのための不育症カップルへのテnder・ラビング・ケア TLC 実践の手引き」
- ・「心理の専門家ではないスタッフのための流産・不育症カップルへのグリーフケア実践の手引き」

については、「フイクーラボ」ホームページ（<http://fuiku.jp/>）からもご覧いただけます。

### ◆研究者からのひとこと

流産や死産を繰り返す不育症女性は約4.2%（24人に1人）ともされ、少なくありませんが、周囲にも話すことができないため、孤独感が強く、うつや不安症の発生頻度も高くなります。20年以上前に不育症専門外来を開設して以来、検査や治療を行うとともに、多職種での精神支援を行ってきました。

医療スタッフはもちろん、一般の方々にも「不育症」を知っていただければと思います。



岡山大学大学院保健学研究科 研究科長  
岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育ところの相談室」 センター長  
岡山大学病院リプロダクションセンター センター長  
岡山大学生殖補助医療技術教育研究（ART）センター リカレント教育部門長  
中塚幹也



＜お問い合わせ先＞

岡山大学大学院保健学研究科 研究科長

岡山大学生殖補助医療技術教育研究（ART）センター

教授 中塚幹也

（電話番号）086-235-6538（FAX兼）



岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を支援しています。